



12月の野菜研

あおもりの未来
技術でサポート

令和元年12月27日

地方独立行政法人青森県産業技術センター 野菜研究所

12月に研究所内で行った作業等について簡単に紹介します。

掘取ったナガイモの比較

右の写真は、品種育成を行っている試験圃場のナガイモを並べているところです。今年収穫したナガイモを品種・系統及び試験地ごとに並べ、直接いもの出来を見ながそれぞれを比較しているところです。

白い札から札までが1つの試験区となっており、1区当たりには掘り上げられた十数本のいもが並べられています。並べられたいもには、形が良いいももありましたが、中にはいもの途中からこぶが出たいも、いもの下部が平になったいも、いもの途中にリング状の溝が入ったいもなど障害が発生したいももありました。農家で作付が多い「園試系6」を対照品種として、直接いもを見て今後の品種育成の進め方などを検討しました。



令和元年12月27日撮影

機械化による効果を軽労化評価で検討

ナガイモに関する作業を機械化により省力化した際の経営評価のひとつとして、軽労化評価を行いました。軽労化評価は、ただ単に労働時間を比較するのではなく、作業者の意見を基に作業による肉体的・精神的な疲労の程度を相対的に評価し、軽労化程度を金額換算する評価法です。右の写真は、農場作業をした職員から作業ごとに疲労程度を聞き取り、疲労程度ごとにその作業の順位付けをしているところです。



令和元年12月17日撮影

成績検討会を開催

令和元年12月20日に、当研究所で第3回成績検討会を行いました。栽培部、品種開発部、病虫害部の合わせて32課題と、指導参考資料候補の4課題を検討しました。検討会には、県庁、各地域県民局普及指導振興室、病虫害防除所、全農あおもり、JAの担当者も加わり、試験内容、結果の活用方法等について活発な議論を行いました。指導参考資料候補は、



令和元年12月20日撮影

今後、更により利用しやすい指導参考資料となるよう検討を行います。

今回の検討会では、主にニンニクに関する課題の検討を行いました。

ナガイモ原原種ハウス新築等工事

ナガイモの原原種(むかご)生産用の大型ガラスハウスの新築、既存ガラスハウスの改修、古いハウスの解体工事が10月から始まり、2か月が経過しました。

改修と解体工事は11月に完了しました。新築工事は、基礎のコンクリート、土間のコンクリート打ちなどが終わりました。一見すると作業が進んでいないように見えますが、予定どおり工事は進んでいます。いよいよ1月からは、基礎の上へ鉄筋を建てる作業が始まる予定です。



新築工事: 令和元年12月25日撮影

連絡先: 野菜研究所
Tel 0176-53-7171 Fax 0176-53-8934
Email nou_yasai@aomori-itc.or.jp